Series of the Ticket
シリーズ・ザ・チケット

パラレル

5

108

Series of the Ticket
シリーズ・ザ・チケット

パラレル

5

108

境界線を飛び越えれば飛び越えるだけ
あなたの世界から制限が消えていく

体を伸ばし、思いっきり深呼吸したあなたは
「幸せだ」と感じる

それが分かったあなたは
躍起になって境界線を飛び越え始める

そのたびに境界線そのものが消えていく

そして気がつけば…

いちいち飛び越えるまでもなく
境界線は全て
綺麗さっぱりと消えているのだ

まえがき

お待たせしました。パラレル第五弾です。

前回の「パラレル４」では、既成概念による制限を取っ払うための仕掛けが施してありました。

そのためにこれまでとはすこし違う作りになっていたと思います。

これによって大転換が起きた方もいるでしょう。

もちろん大転換が起きなかった方もいると思います。

でもどっちでも大丈夫。

今回のパラレルはより実践的な内容になりました。

読んだ方は一見、通常のパラレルに戻ったような印象を持たれる

かもしれません。

しかしあなたは実は大転換を通り越しているのです。

これまでと同じ、そしてこれまでの延長線上の現実にいると思っているあなたは…

実は全く異なる現実にパラレルシフトしているのです。

果たしてあなたが読んでいる途中でこれに気がつくかどうか。

それではパラレル5、スタートです。

パラレル５　インデックス

まえがき　1

Act. 1

次元上昇　15

次元上昇（アセンション）に対する誤解　22

愛は奇跡　33

Act. 2

わがまま　43

わがままは罪悪？　44

わがままの正体　54

わがままの真実　66

Act. 3

わがままが本来の姿　70
制限という幻想　77
法律は何故生まれたか　97
わがままのまとめ　104

開放　113

天国　114
自由　118
力　124
次元の境界線　132
境界線の突破　147
ハーブティー　153

無数の境界線　162
アセンション　170
パラレルシフトと次元上昇　179
一つのメカニズム　195
ハードル　203
創造主　212

あとがき　245

150kgのベーベルは持ち上げられるか　232
能力値の限界　240
今ここの境界線　254

本当のあとがき 268

Act 1

次元上昇

お久しぶりです。

「正直驚いていますよ」

えっ？なにがですが？

「前回のパラレル4で、このシリーズは完結したのかと思ってました」

そうですか？

あれが完結編だとアナウンスした覚えはないですけど…。

「終わり方ですよ。なんか終わった感がありました」

それはあなたが「もう過去なんてどうだっていい」なんて言い方をして終わるからですよ。

結論出ちゃったみたいな印象になってしまった。

「私のせいですか！
…でも過去改変については結論出たような感じでしたけどね」

この本のタイトルはなんですか？

「なんですか…って、パラレルでしょう」

ですよね。「過去」ってタイトルじゃありませんよ。

過去改変に関して一応の結論が出たからといって、この本の主題を語り尽くしたことになんてなりません。

それに過去改変の話はこの後も出てくると思いますよ。

「え～っ!?まだ続ける気ですか？」

今回とは言っていません。

パラレル第一巻でも書きましたけど、この本はらせん状にぐるぐる上昇していくような形を取るんですよ。

だから前にお話ししたテーマに再び戻ってくるようなことが多々あるでしょう。

しかしそれは、同じことを繰り返しリピートしているわけでは

ないんです。

「多層に重なる別の現実ってわけですか。そりゃまさしくパラレルって感じですね」

我ながら良く出来ているでしょう。

「そんなとこ自慢されてもなぁ…
で、今回はなんのお話なんですか。全く新しいテーマに突入していくことになるんですか」

今回は次元上昇（アセンション）のお話です。

「わお！こりゃまたオカルトっぽいテーマですね」

オカルトってかスピリチュアルというかね。

「いかにもって感じですね。
正直、あなたはこういうテーマは意図的に避けてるのかなと思ってましたよ」

どうしてですか？そんなつもりは全然ないんですけど。

「なんだか、そっち系の人が喜んで飛びつきそうなテーマじゃないですか。アセンションとか次元上昇とか。読者に迎合していると思われ

るのが嫌で、敢えて取り扱わないのかと思ってました」

そんなことないですよ。次元上昇ってパラレルシフトと切っても切り離せないほど密接したテーマです。

「そうなんですか?」

それに、多分あなた方は次元上昇について恐らく誤解した概念を持っている。

それを崩しはじめることから始めましょうか。

「既存の概念の解体か…」

次元上昇（アセンション）に対する誤解

まず聞きますけど、あなたは次元上昇をどのようなものだと考えているんですか？

「そうですねえ…
なんていうか、私たちの意識のレベルが上がって、霊的に進化する、みたいなイメージですかね。
重い波動から自由になって、もっと精神的な軽い体、光り輝くライトボディを手に入れるんじゃないんでしょうか。

その結果、物理的な制約から離れる。
色んなことが今よりもっと自由自在に出来るようになる。
そうなれば自ずと、物理的な部分でも変化が現れるんじゃないです

か。地球の環境が良くなったり。地球自体がアセンションするって言ってる人もいますよね」

霊的進化とかライトボディとか、いかにもな単語がバンバン出てきましたね。

「イメージとボキャブラリーが貧困で申し訳ありませんね！でも私が考えるアセンションってそんな感じですよ」

なるほどね。

「で、実際のところはどうなんですか。次元上昇って本当はどんなものなんですか？」

今あなたが言ったとおりのことですよ。

「ええ～っ！」

大体合ってますよ。素晴らしいです。

「そうなんですか？
私はてっきり『そんなのとは全然違います』的なことを言われるのかと思ってましたよ」

そりゃご期待に添えずに申し訳ありませんでしたね。

「いや、そこまで失望したわけじゃありませんけど…。でも、このシリーズのパターン的にはそれがお決まりの流れじゃないですか」

あなたは本当に既成概念がお好きなんですなぁ…。

「別に既成概念が好きな訳じゃありませんよ！
でも『既成概念を解体する』とか言っておいて、これじゃ解体どころか既成概念の全面的肯定じゃないですか。
いわゆる次元上昇って世間で言われているとおりのことなんですか？」

世間で言われていることと同じかどうかは知りませんけどね。
ほとんどあなたが言ったとおりのことですよ。

「そうなんだ…やっぱりちょっとガッカリだな。盛大に肩すかしを食らった気持ちだ」

じゃあ、ちょっとガッカリついでに要点をまとめてみましょうか。

「なんですか、ガッカリついでって」

いいからいいから。ちょっとまとめてみますよ。

次元上昇とは…

・意識のレベルが上がる

・霊的に進化する
・その結果ライトボディになる

…ライトボディって、いってみれば「半霊反物質」みたいなことですか？

「私も良く知りませんけど、恐らくそういうことなんじゃないですか？」

…で、その結果、

・物理的な制約から離れる

・地球の環境が良くなる

こんなところですかね。

「まあそんなところでしょうか」

…で、これらのことって別に次元上昇しなくても起こりえるんじゃないですか？

「そうですか？」

だってそうじゃないですか。

あなたの意識レベルが上がる。

これはつまり、あなたが気づきを得て新しい観点、つまりはより実像に近い観点から物事を観察できる立場に立ったということですよね。

それはつまり「霊的に進化した」と言い換えても良いでしょう。

そうなれば物理的な肉体に捕らわれた重い状態ではなく、もっと精神的なレベルで存在できることになる。

これは「ライトボディが覚醒した」ということになりますよね。

そうすれば、あなたが知覚するものも実像により近い様子となる。

現在は酷く環境破壊されてボロボロになっているように見える地球も、実像に近い形、つまり十全な環境状態であなたが知覚できるようになる。

結果的に、あなたは「環境の良くなった地球」を「体験する」ことが出来るようになる…。

「そう言われると、確かに次元上昇というような大層な話でもないですね」

でしょう？

「…いやいやいや、やっぱり大層な話ですよ。
あなたの話を聞くうちに『そんなの当たり前じゃん』と感じるようになったけど、やっぱおかしいですよ。麻痺しちゃってるんだ」

そうですか？

「そうですよ！
『意識のレベルが上がって』
『物理的制約がなくなり』
『地球環境まで変わってしまう』
これって相当な話ですよ」

そうですかね。

まあ「相当な話ではない」とは言ってないんですけどね…。

でも、今言ったようなことは敢えて「次元上昇」なんて新しい概念を導入しなくても、パラレルでお話ししてきたことで簡単に説明がつきますよね。

「まあ…確かに。
だからこそ当たり前のように思えちゃったんですけど」

でしょ。

それはつまり、あなたの中で既成概念が崩れて新しい観点から

物事を捉えられるようになってきているということですよ。
あなたはそれが出来るようになりつつある。

要するにあなたは次元上昇のまっただ中にいるということですよ。

既に起きている次元上昇

「私が次元上昇の最中だということですか?」

あなたに限りませんけどね。

「でも待ってください。

パラレル5

2013年11月11日　初版第1刷発行

著者　108
発行　インテグレイテッド・インフォ

©108
All rights reserved

本書は著作権法によって保護されています。
本書の内容を無断で転載、記載することは禁じます。
本書を無断で譲渡・転売することを禁じます。